

公開日：2026年2月5日

当院に入院した患者様とご家族様へ

研究へのご協力をお願い

【研究実施者】 地域連携部 松田 みなみ

【研究名称】

介護者の希望が変化した退院支援の6事例にみる支援要因の検討  
—ICF環境因子の視点から—

【研究の背景・目的】

医療機関における退院支援では、患者様ご本人の希望に加え、介護を担うご家族（以下、介護者）の意向が退院先の決定に大きな影響を及ぼすことが多くあります。患者様が自宅退院を希望していても、介護者が不安や負担を感じている場合、施設入所や転院が選択されることも少なくありません。

これまでの実践や先行研究から、退院先の決定には介護者の生活背景や支援環境が深く関係していることが指摘されています。一方で、退院支援の場面において、これらの要因をどのように整理し、支援につなげていくかについては、さらなる検討が必要であると考えられます。

そこで本研究では、ICF（国際生活機能分類）における「環境因子」の視点に着目し、退院支援の経過の中で介護者の退院先に対する希望が変化した事例を対象に、医療ソーシャルワーカーの支援内容を振り返ります。

本研究の目的は、ICF環境因子の視点から退院支援を整理・分析することで、介護者の不安や意思決定に影響を与えた支援要因を明らかにし、退院支援におけるソーシャルワーカーの実践の有用性を検討することです。

本研究は、岸和田リハビリテーション病院との合同研究です。

【研究の方法】

本研究は質的研究として実施します。

回復期リハビリテーション病棟で勤務する医療ソーシャルワーカーを対象に、半構造化インタビューを行い、退院支援の経過や支援内容についてお話を伺います。

インタビュー内容は逐語録として記録し、テーマ分析を行ったうえで、ICFの環境因子の

視点から分類・整理します。

#### 【研究対象】

以下の条件を満たす事例に関わった医療ソーシャルワーカーを対象とします。

- ・回復期リハビリテーション病棟に勤務する医療ソーシャルワーカー
- ・入院当初、介護者が自宅以外の退院先を希望していたが、支援の経過を経て最終的に自宅退院となった事例

#### 【個人情報への配慮】

本研究で取り扱う情報は、インタビューにより得られた内容のみであり、患者様やご家族の診療記録や個人情報は使用しません。

研究に使用するデータは、個人や施設が特定されないよう匿名化を行い、研究目的以外には使用しません。

収集したデータは厳重に管理し、研究終了後は適切に廃棄します。

#### 【研究の資金源・利益相反】

本研究に関する資金提供はなく、利益相反関係はありません。

#### 【お問い合わせ先】

本研究は、岸和田リハビリテーションとの合同研究です。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2026年2月28日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

この研究についてわからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。本研究に関するご質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

研究への利用を拒否する場合の連絡先:072-778-0500

連絡担当者: 松田 みなみ

所在地:〒664-0011 兵庫県伊丹市鋳物師5丁目79番地

実施機関名:伊丹せいふう病院 リハビリテーション部

電話番号:072-778-0500